

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	役員賞与引当金繰入	500,000	役員賞与引当金	500,000
2	当座預金	2,560,000	売買目的有価証券	2,525,000
			有価証券売却益	25,000
			有価証券利息	10,000
3	当座預金	200,000	買掛金	200,000
4	備品	1,850,000	当座預金	1,850,000
5	売掛金	900,000	受託販売	810,000
			受取手数料	90,000

・解説

1. 役員賞与に関する問題です。役員賞与に関しては、株主総会において承認を受ける場合と受けない場合の 2 パターンがありますので、まずはどちらのパターンなのか判断する必要があります。ただ、本問は問題文に「**当社は、株主総会において役員賞与の支給に関する議案の承認を受けることとしている**」とありますので、前者のパターンであると簡単に判断することができます。

■株主総会において承認を受ける場合（解答）

★役員賞与の見積り時

（借）役員賞与引当金繰入 500,000 / （貸）役員賞与引当金 500,000

☆参考：株主総会の承認時

（借）役員賞与引当金 500,000 / （貸）未払役員賞与 500,000

☆参考：役員賞与の支給時

（借）未払役員賞与 500,000 / （貸）当座預金など 500,000

株主総会において承認を受ける場合は、見積りに役員賞与引当金を計上しておいて、株主総会において承認された時点で役員賞与引当金を確定債務である未払役員賞与に振り替えます。

■株主総会において承認を受けない場合（参考）

☆参考：役員賞与の見積り時

(借) 役員賞与引当金繰入 500,000 / (貸) 未払役員賞与 500,000

☆参考：役員賞与の支給時

(借) 未払役員賞与 500,000 / (貸) 当座預金など 500,000

株主総会において承認を受けない場合は、**見積時に債務が確定することになります**ので、役員賞与引当金を経由すること無く、**そのまま未払役員賞与を計上することになります**。なお、役員賞与支給時の仕訳はどちらのほう場合でも変わりません。

役員賞与に関する問題は重要性・出題頻度ともにあまり高くはありませんので、上記の2パターンを押さえておけば十分だと思います。

2. 有価証券の売却に関する問題です。本問は「有価証券利息を受け取った仕訳」と「売買目的有価証券を売却した仕訳」を分けて考えることをおすすめします。

■有価証券利息を受け取った仕訳

本問は直近利払日の翌日（平成20年10月1日）から売却日（平成20年10月20日）までの有価証券利息を認識することになりますので、以下のような計算式で利息額を算定することになります。

$$\boxed{2,500,000 \text{ 円} \times 7.3\% \times 20 \text{ 日} / 365 \text{ 日} = 10,000 \text{ 円}}$$

よって解答すべき仕訳は以下のようになります。なお、問題文で与えられている勘定の中に**有価証券利息勘定がない場合は、受取利息勘定を使って処理することになります**ので、あわせて確認しておいてください（第116回の間2参照）

★解答①

(借) 当座預金 10,000 / (貸) 有価証券利息 10,000

■有価証券利息を受け取った仕訳

本問は前期末に評価替えを行ってしますので、その評価替えを考慮した帳簿価額と売却差額を比較して売却損益を求めることになりますが、今回は購入時まで遡って一連の流れを再確認しておきましょう。

まず購入時の仕訳ですが、問題文に「額面 5,000,000 円、取得原価 5,020,000 円」とありますので、額面@100 円の T 社社債を@100.4 円で購入したことが分かります。

☆参考：購入時の仕訳（売却分のみピックアップ）

（借） 売買目的有価証券 2,510,000 / （貸） 当座預金など 2,510,000

次に、前期末の評価替えの仕訳を考えていきます。問題文に「前年度の決算日（平成 20 年 3 月 31 日）において T 社社債の時価は@101 円であった」とありますので、@100.4 円で購入した T 社社債を@101 円に評価替えすることになります。なお、売買目的有価証券の会計処理方法として、時価法（切り放し法）を採用していますので、翌期首に逆仕訳を切る必要はありません。

☆参考：前期末の評価替えの仕訳（売却分のみピックアップ）

（借） 売買目的有価証券 15,000 / （貸） 有価証券評価益 15,000

上記のような流れにより、売却直前の帳簿価額が 2,525,000 円ということが分かります。一方、売却金額は問題文に「平成 20 年 10 月 20 日に@102 円で売却した」とありますので、そのまま@102 円を使って算定し、@102 円と@101 円との差を売却益として認識することになります。

- ・ 有価証券の帳簿価額 = $2,500,000 \text{ 円} \times @101 \text{ 円} / @100 \text{ 円} = 2,525,000 \text{ 円}$
- ・ 有価証券の売却価額 = $2,500,000 \text{ 円} \times @102 \text{ 円} / @100 \text{ 円} = 2,550,000 \text{ 円}$
- ・ 差額 = 25,000 円（帳簿価額 < 売却価額・・・売却益）

★解答②

（借） 当座預金 2,550,000 / （貸） 売買目的有価証券 2,525,000
（貸） 有価証券売却益 25,000

最後に①②の仕訳をまとめて解答用紙に記入すれば完了です。有価証券の売却に関する仕訳は、取引を分解して考えると簡単になりますので、ぜひこの解き方をマスターしてください。

なお、参考までに・・・売買目的有価証券の会計処理方法が切り放し法ではなく洗い替え法だった場合、有価証券売却益の金額が 25,000 円ではなく 40,000 円になりますので、余裕のある方はこちらの方でも考えてみてください。

$$2,500,000 \text{ 円} \times (@102 \text{ 円} - @100.4 \text{ 円}) = 40,000 \text{ 円}$$

☆参考：切り放し法ではなく洗い替え法を採用していた場合の解答

(借) 当座預金	2,560,000	／	(貸) 売買目的有価証券	2,510,000
			(貸) 有価証券売却益	40,000
			(貸) 有価証券利息	10,000

有価証券の売却に関する問題は、第105回の間2や第107回の間1、第111回の間1、第113回の間2、第116回の間2、第118回の間4、第119回の間3、第121回の間2、第122回の間3、というようによく出題されていますので、きちんと過去問対策をするようにしてください。

3. 銀行勘定調整表に関する問題です。銀行勘定調整表の問題は、第1問の仕訳問題だけでなく第3問・第5問の総合問題での出題も考えられますので、中でも頻出論点である未渡小切手については必ず出来るようにしておいてください。

ではさっそく問題を解いていきましょう。問題文に「すでに掛代金の支払いとして処理されていた小切手200,000円が未渡しであることが判明した」とありますが、これがいわゆる「未渡小切手」というやつです。

小切手を振り出し、支払いが完了したものとして処理していたが、実は先方に小切手を渡しておらず、金庫の中に小切手が眠っていたので、当座預金の減少を取り消すとともに買掛金の減少を取り消す仕訳を切ることになります。具体的な解答手順としては、小切手振出時の仕訳をイメージして、その逆仕訳を切るだけです

☆参考：既に切っている仕訳

(借) 買掛金	200,000	／	(貸) 当座預金	200,000
---------	---------	---	----------	---------

★解答：未渡小切手を認識する仕訳

(借) 当座預金	200,000	／	(貸) 買掛金	200,000
----------	---------	---	---------	---------

ちなみに、買掛金以外（例えば広告宣伝費など）について未渡小切手があった場合には買掛金勘定ではなく未払金勘定を使うこととなりますので、間違えないように注意してください。**未渡小切手の対象が買掛金なら買掛金勘定を使って処理、買掛金以外なら未払金勘定を使って処理する**と覚えるようにしてください。

☆参考：既に切っている仕訳

(借) 広告宣伝費など	200,000	／	(貸) 当座預金	200,000
-------------	---------	---	----------	---------

☆参考：未渡小切手を認識する仕訳

(借) 当座預金 200,000 / (貸) 未払金 200,000

銀行勘定調整表に関する問題は、第 100 回の問 4や第 101 回の問 1、第 105 回の問 4、第 111 回の問 2、第 113 回の問 4、第 115 回の問 5、第 116 回の問 5、第 123 回の問 1でも出題されています。

なお、本問は 1 つの取引しか出てこないのが簡単ですが、第 111 回の問 5では 2 つの取引、第 123 回の問 1では 3 つの取引が出てきて若干ややこしいですので、本問を解いた後に併せて確認しておいてください。

4. 固定資産の購入に関する問題です。本問のポイントは「**割戻額 150,000 円を控除**」という部分になりますが、割戻額というのは簡単に言いますと「**たくさん買ってくれたから安くしてあげるね**」ということです。

したがって、購入総額 2,000,000 円から割戻額 150,000 円を差し引いた残額 1,850,000 円だけ固定資産の増加を認識することになります。

なお、本問に関しては仕入割引勘定を使って解答した方もいらっしゃるかもしれませんが、仕入割引とは「**商品代金を支払期日より早く払ってくれたから安くしてあげるね**」ということですので、混同しないように気をつけてください。

固定資産の購入に関する問題は第 101 回の問 3や第 118 回の問 5、第 120 回の問 5、第 128 回の問 1でも出題されていますが、建設仮勘定に絡めて問われるケースが多いです。

5. 特殊商品売買の受託販売に関する問題です。本問は、売上に関する仕訳と手数料に関する仕訳を分けて考えていくことをおすすめします・・・とその前に、受託販売について簡単におさらいしておきましょう。

受託した商品を売り上げた場合、販売先から代金を受け取るのは当社ですが、それは委託者が受け取るべきものを一時的に預かっているだけにすぎません。そこで受託販売を行った場合は、受け取った代金を預り金勘定の性質をもつ「**受託販売**」勘定で一時的に処理しておくことになります。

では早速、問題を考えてみましょう。売価 50,000 円の商品を 18 個だけ掛販売したわけですから仕訳は以下のようになります。**売上勘定を使わずに受託販売勘定を使って仕訳を切る**のがポイントです。

★解答①

(借) 売掛金 900,000 / (貸) 受託販売 900,000

では次に手数料に関する仕訳を考えていきます。上の仕訳で貸方に受託販売 900,000 円を認識しましたが、これは預り金が 900,000 円あることを意味しています。

当社は、他社の商品を販売した見返りに販売価額の 10%を販売手数料として受け取ることが出来るわけですから、この預り金から手数料 90,000 円 (=900,000 円×10%) を差し引けばいいのです。

具体的には、受け取るべき手数料の金額 90,000 円だけ、受託販売勘定を受取手数料勘定に振り替える仕訳を切ることになります。

★解答②

(借) 受託販売 90,000 / (貸) 受取手数料 90,000

上記の①②の仕訳をまとめると解答になります。受託販売に関する問題は、特殊商品売買の頻出論点で、第 100 回の問 2や第 101 回の問 2、第 105 回の問 3、第 112 回の問 4、第 113 回の問 1、第 114 回の問 5、第 118 回の問 2、第 124 回の問 2、第 126 回の問 1、第 128 回の問 4でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。